

会長挨拶

国大化学会会長 横山幸男（昭和49年電化卒）

学生会員、正会員の皆様こんにちは、理工学部化学系同窓会「国大化学会」会長の横山幸男（電化S49卒）です。国大化学会会長として一期2年はあっという間に過ぎ去った感がありますが、会の活動を支えて下さった会員各位、役員会の皆様方に感謝申し上げます。引き続き二期目も担当することとなり、新たな気持ちで会の運営に努力して参る所存です。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

二期目の役員会は、副会長2名の交代とグループリーダー4名の交代があり、執行部に新たにご意見番としてアドバイザーを設けました。また、2名の新役員および4名の学生役員（4年生）に加わっていただき、すでに同窓会の運営を担っていただいております。学生役員には学生会員と同窓会の橋渡し役を期待しております。なお、監査役員2名についても今回交代していただきました。

昨年度は、入学時に一定額の会費を徴収する方法（会費先取り）に変更された最初の学生が卒業し、同時に約85%の学生が大学院博士課程前期に進学しました。同窓会費を入学時に納めていただいたということは、学生会員および大学院在学正会員に対して、学生生活を通して種々の情報提供、勉学支援、生活支援、就職支援など、これまで以上に在学中の同窓会との関わりを求められたこととなります。こ



のことを念頭において種々の学生支援策を講じてきたところで、今年度はさらに学生の研究活動に関する支援（間接的な教員支援でもある）内容を強化しました。国内学会、国際学会の参加登録費の補助を実質的に増額し、また、他大学に進学した学生も支援の対象としました。同窓会の存在と役割を学生会員の方々に周知するため、入学時のみならず進級時のオリエンテーション等において説明する機会を確保するようにしました。

平成30年度化学EP卒業生数は71名を数え、同時に正会員とされました。おめでとうございます。いっぽう、今年度化学・生命系学科2年次生の化学EP配属者数は82名で、正式に学生会員とされました。国大化学会を大いに活用していただきたくお願ひいたします。

副会長就任にあたって

国大化学会副会長 小野塚 新（昭54年 物工卒）

1. はじめに

副会長への就任に当たり、ご挨拶を申し上げます。私は、工学部電気化学科（電化）に入学後、在学中に改名した材料化学科（材化）を卒業（'79）、修士課程修了（'81）後、旧日本鉱業（株）（現 JXTG エネルギー（株））に入社、同社での半導体材料に関する研究論文を、恩師、材化中西和美教授に提出して、横浜国大から工学博士号をいただきました。また、大先輩も参加される研究室の新年会には、毎年夫婦で参加し、大学（研究室）を故郷と感じながら、すでに40年が経ちました。

その恩師のお声掛けもあり、国大化学会役員をお引き受けし（'12年）、これまで企画調整グループで、学生支援の充実や会費納入率や寄付の拡大などの施策を企画してまいりました。

また、大学主導で新たに発足した校友会の設立（'14年）と同時にその理事に就任し、国大化学会との橋渡し役を務めております。

2. 国大化学会の現状

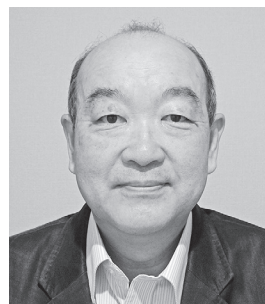
国大化学会は、歴史ある電気化学科、応用化学科およびそれらを発展的に改編した物質工学科、それにつながる現在の化学 EP の在学生、卒業生および先生方を合わせ、約7,500人の会員を有します。

国大化学会の設立趣旨は会員相互の懇親ですが、現在は学生支援（情報面および資金面）を活動の柱にしています。その理由を一言で表せば、「学生支援を核にした会員の絆」づくりです（下図参照）。

在学生への情報面（企業情報提供での就活支援）および資金面（国内、海外学会参加費補助など）の支援により、在学中に優れた研究成果を出していただき、卒業後の仕事を充実させる。それらが大学（故郷）への帰属意識を高め、ひいては国大化学会への参画や会費・寄付の納入につながるという、好循環を期待しています。

3. 課題

新入学生の同窓会費が、入学時の一括前納方式に変更されて、徴収率が80%以上と大幅に向上したことと、卒業生による寄付が増加したことから、現在の国大化学会の収支は改善しつつあります。

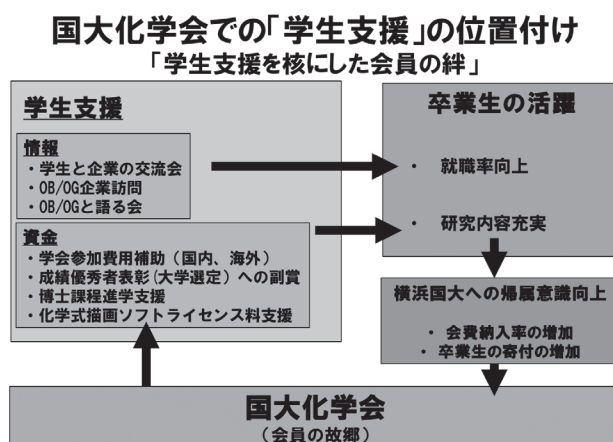


しかし、昭和・平成年代の卒業生からの会費納入率は約30%にとどまっております、この向上が課題です。それと同時に、会員相互の懇親や在学生との交流の機会を提供することが、次の課題と考えています。

具体的には、会誌による情報発信の工夫（卒業生の活躍の紹介（企業、大学、国の機関等））や総会・懇親会の活用などの新たな施策によって、上述の好循環を、さらに力強いものになりたいと考えております。

国による大学運営費の削減傾向の中で、国大化学会による学生支援は直接大学支援につながっており、母校の存立継続にも寄与するものになってきております。

どうか皆様の応援をお願いいたします。



副会長就任のご挨拶

国大化学会副会長 大谷裕之（化学・生命系学科 化学 EP 代表）

国大化学会会員の皆様、こんにちは。

私、大谷裕之は2019年4月より、化学・生命系学科 化学 EP 代表を仰せつかっております。化学 EP 代表は、化学 EP 所属の現職教員および学生会員とOB・OGの皆様とを繋ぐ架け橋となるよう国大化学会副会長の要職を務めさせて頂くこととなっております。私は環境情報学府担当教員として環境情報研究院に所属し、現会長の横山幸男先生と協力して大学院および学部の教育と研究を担当してまいりました。この度、横山会長のもと国大化学会副会長として、その責務を精一杯務めさせて頂きたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

時代は平成から令和へと移ってまいりましたが、引き続き大学における社会に対する役割や貢献について問われる時代であり大学の責任が益々重くなってきています。そのような大学の在り方の変化にともない大学と同窓会の皆様との連携が大変重要になってきています。同窓会にも大学と社会とを繋ぐ架け橋として情報発信、人的交流、学生の就職活動支援、あるいは卒業生・修了生の社会活動の援助など多様な役割を果たして頂くことが求められるようになってまいりました。横浜国大の化学系同窓会が横国化学会、横浜応化会、および横浜電化材化会が統合して平成19年に国大化学会が発足して以来、「本学と卒業生とのネットワーク」や「企業との実践的連携強化」などの取り組みを行っていただいております。その活動は今も継続しています。また、最近では、全学同窓会組織の「校友会」と理工学部同窓会連合の「名教自然会」との連携も益々強化され、国大化学会としての活動は充実してきています。特に、学会参加費補助やドクタースタートアップ支援などの学生会員に対する金銭的支援をいただいております。さらに、就職準備講座（OB・OGと語る会）、先輩訪問、あるいは二年次生の化学 EP 配属歓迎会などの活動にたいしてもご援助いただき、学生会員が同窓会を通じて学年や研究室の枠組みを超えた人脈育成にも積極的に取り組んでいます。国大化学会の学生会員に対する金銭的援助活動や人脈育成活動は大変有意義なものとなっております。教員正会員および学生会員一同深く感謝しています。

次に、国大化学会会員の皆様に関係した化学 EP



および理工学部に関する最近の話題を報告いたします。第一に、横浜国大キャンパスの安心・安全な環境整備計画の一環として2019年4月から2021年3月までの2ヵ年計画で老朽化した化学棟の改修工事が執り行われることが決定いたしました。現在の化学棟で学生実験や研究活動に携わった卒業生・修了生の皆様にとっては思い出深い化学棟が改修されることに一抹の寂しさもあるかと思いますが新化学棟にご期待ください。第二に、理工系学部・大学院（理工学部、都市科学部、大学院理工学府、大学院環境情報学府、および大学院都市イノベーション学府）は、大正9年にその前身である横浜高等工業学校として発足して以来2020年に創立100周年を迎えます。そこで、2学部と3大学院学府が一丸となって理工学系創立100年記念事業を行うことが決定いたしました。事業内容としては、① 記念式典・講演会（2020.11.21.開催）、② 記念誌編纂、③ 記念整備事業、および④ 記念学生参加イベントが計画されています。会員の皆様へ創立100年記念事業が執り行われますことをご承知おき下さい。

最後になりますが、国大化学会には大学における実践的な社会教育の場を提供いただき、学生会員の研究室を超えた交流や卒業・修了年度を超えた同窓生としての繋がりを生かした活動をととして化学 EP のみならず本学の発展に対し、引き続きお力添え下さるようお願いする次第です。令和の時代を迎え、横浜国大 理工系学部・大学院の新たなる変革と発展のために、化学 EP と関連する大学院に所属する現職正会員・学生会員と正会員との交流、および正会員同士の相互交流が一層深まりますよう会員皆様のご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。